

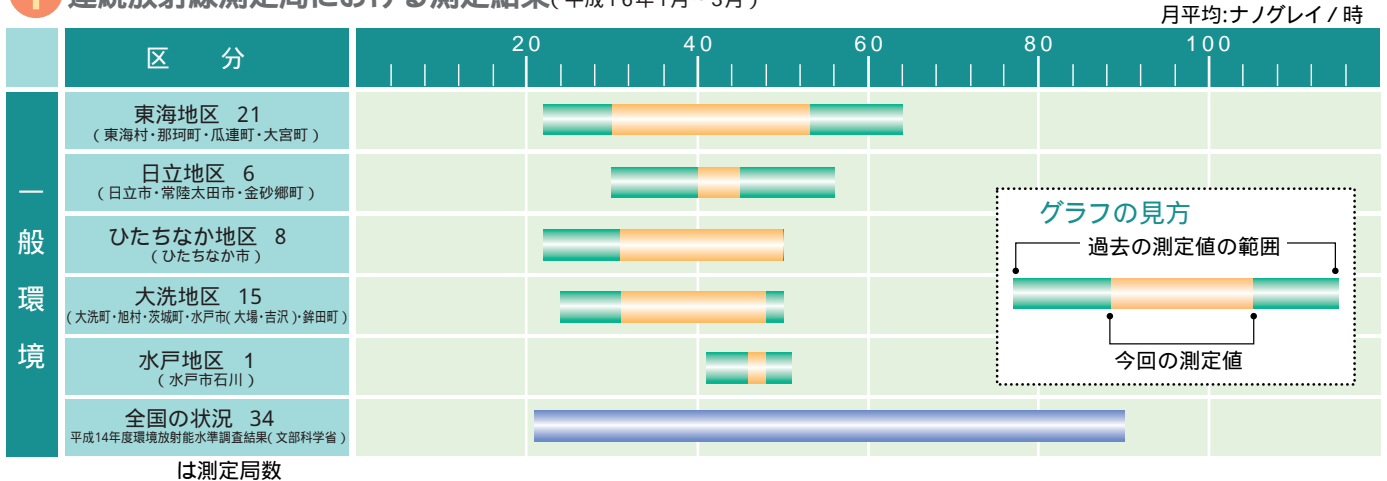
# 環境放射線 監視結果

## 原子力施設周辺における環境

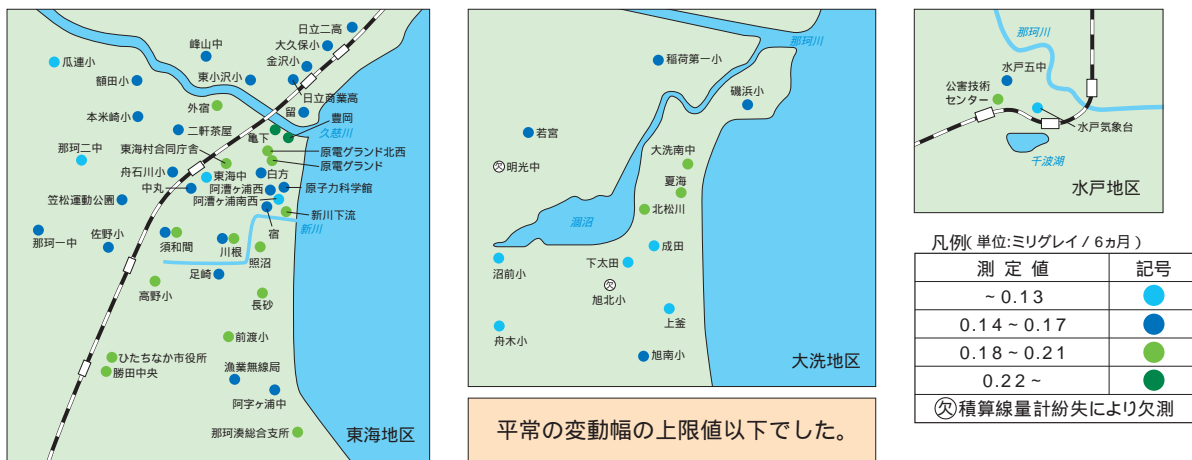
東海・日立・ひたちなか・大洗・水戸地区の環境放射線や放射性物質を測定し向は認められませんでした。また、1年間に受けた放射線の影響の程度は

### 空間線量率(ガンマ線)

#### 1 連続放射線測定局における測定結果(平成16年1月~3月)



#### 2 積算線量計による放射線測定結果(平成15年度下半期 6ヵ月)



空間の放射線量(ガンマ線)の値は、過去に測定された値と比較しても同程度であり、異常は認められませんでした。測定値が場所により異なるのは、放射線測定局が設置されている場所の違い(土壌、コンクリートなどの建物や道路の状況など)によるものです。コンクリートなどにはもともと天然の放射性物質が含まれていますので、その近くでは少し高くなります。

### 環境試料中の放射性物質

(平成15年10月~平成16年3月)

牛乳中のヨウ素-131や空気中の塵埃、土壌、海水、海底土などに含まれているセシウム-137、ストロンチウム-90などの人工放射性核種を測定した結果、土壌や海底土から過去の大気圏内核爆発実験などにより放出されたセシウム-137などが検出されましたが、これまで検出された範囲内でした。

牛乳	水戸市、那珂町、大洗町、ひたちなか市、旭村(各1カ所)	ヨウ素-131不検出
大気塵埃	東海村<6>、ひたちなか市<3>、日立市<1>、大洗町<2>、旭村<1>、茨城町<1>、水戸市<1>	人工放射性核種不検出
降下塵	東海村<1>、大洗町<1>、水戸市<1>	
土壌	東海村<2>、那珂町<1>、ひたちなか市<2>、日立市<1>、旭村<1>、水戸市<1>	7地点でセシウム-137を検出(5.0~30ミリベクレル/g・乾土)
河川水湖沼水	那珂川<2>、久慈川<1>、新川<2>、沼沼<1>、阿字ヶ浦<1>	人工放射性核種不検出
海水	東海沖<8>、大洗沖<4>	
海底土	東海沖<8>、大洗沖<4>	7カ所でセシウム-137を検出(0.40~2.0ミリベクレル/g・乾土) 9カ所でプルトニウムを検出(0.29~0.79ミリベクレル/g・乾土)
排水口近辺土砂	東海村<6>、大洗町<1>	ウラン等の放射性核種は不検出

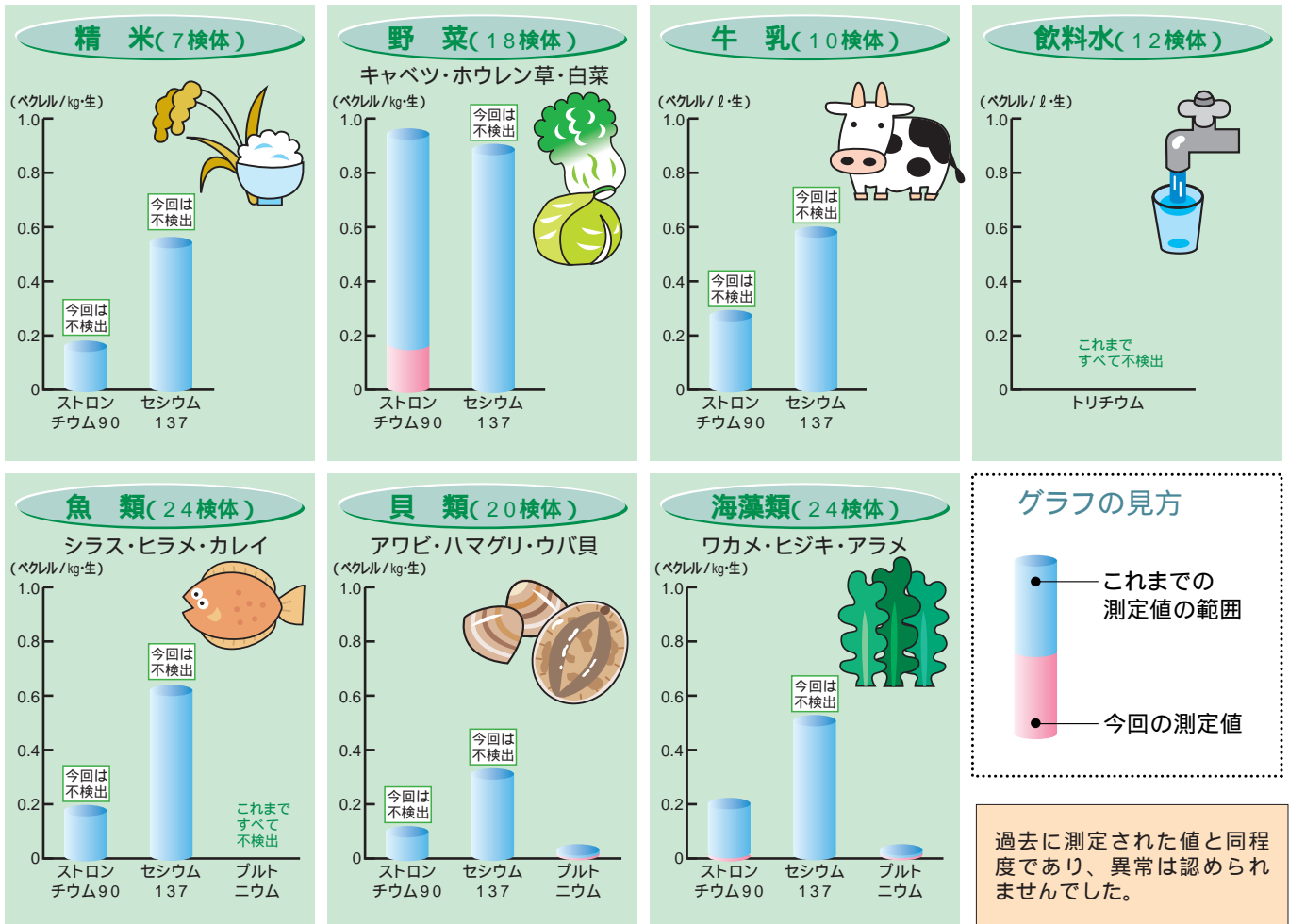
<>は測定地点数

# 放射線の監視結果 (平成15年度)

たところ、原子力施設からの影響はなく、放射能の蓄積傾0.22～0.32ミリシーベルトで過去と同程度でした。

茨城県では、原子力施設周辺の放射線などによる影響を調べるため、空間の放射線の強さや原子力施設からの排気・排水中の放射能濃度、また、水や野菜などに含まれる放射能などを測定しています。この結果は、住民の代表や学識経験者などで構成される「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」で、3ヵ月ごとに安全性を確認しています。

## 飲食物に含まれる放射能



## 原子力施設からの排気・排水中の放射能 (平成16年1月～3月)

原子力施設から排出される排気・排水中の放射能を測定した結果、過去に測定された範囲内または法律で定められている基準値以下で、異常は認められませんでした。

## 線量の推定結果 (平成15年4月～平成16年3月)

積算線量計による空間放射線量の測定結果をもとに外部被ばく線量を求めると0.22～0.32ミリシーベルト、飲食物に含まれる放射能の測定結果をもとに成人一人あたりの内部被ばく線量を求めると0.0001ミリシーベルトであり、これまでと同程度でした。

また、原子力施設から放出された気体廃棄物による実効線量は0.0016ミリシーベルト以下、液体廃棄物による実効線量は0.0038ミリシーベルト以下であり、公衆の年間の実効線量限度として法令で定められている1ミリシーベルトを下回っていることが確認されました。

【シーベルト(Sv)]...人体が放射線を受けたとき、その影響の程度を表わす単位です。1ミリシーベルトは1シーベルトの1000分の1です。

【グレイ(Gy)]...放射線の量を表わす単位です。1ミリグレイは1グレイの1000分の1、1ナノグレイは1グレイの10億分の1です。

【ベクレル(Bq)]...放射線の強さを表わす単位です。1ミリベクレルは1ベクレルの1000分の1です。

詳細については茨城県原子力安全対策課までお問い合わせください。TEL.029-301-2922

最新の空間の放射線量(ガンマ線)の測定値は、インターネットでご覧になれます。  
<http://www.houshasen-pref-ibaraki.jp>